

教育長日記 (平成29年1月28日)

# 青い空に浮かぶ白い雲 114

—謹賀新年— 東大和市教育委員会 教育長 真如昌美

## 新年明けまして おめでとうございます

新しい年が明けました。本年もどうぞよろしくお願いたします。

1月4日(水)は仕事はじめ、6日(金)は、教育委員と校長との新年顔合わせ、引き続き定例校長会、8日(日)は一中校庭を会場に東大和市消防団出初式、翌9日(月)は成人式と行事が続きました。一年が過ぎるのは早いもので、あと1週間もすれば、はや2月です。



さて、平成25年(2013年)9月7日に、ジャック・ロゲ前IOC会長が「tokyo」と記されたカードを手に『トウキョー』と読み上げ、2020年夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が日本の東京に決まったその日から、もう、3年半近くが経ちます。なんと月日の過ぎるのが早いことかと驚きます。

その間、日本の社会はグローバル化の進展、急速な情報化、人工知能(AI)の飛躍的な開発など、「第4次産業革命」とまで言われるほどに技術革新が進んできました。さらに、少子高齢化等を背景に、社会構造にも大きな変化が見られ、高齢者と表現する年齢を75歳にするという提案には驚きましたが、その一方で、少し若返った気持ちになることが出来ました。

教育に目を移しても、子どもたちの成長を支える教育のあり方について改革の必要性に直面していることは明らかです。

次期学習指導要領の改訂の基本方針では、教育基本法や学校教育法が目指す「普遍的な教育」の根幹を踏まえることと共に、「社会の加速度的な変化にも対応する教育」、「社会とのつながりを大切にした教育」など、子どもたちがたくましく未来を切り開いていくための教育の実現を求めています。

私たち教育委員会や学校も、新しい教育に向けて学習指導要領の一言一句と向き合いながらの研修・研究がまた始まります。

今の学習指導要領から新しい学習指導要領に完全に移行する年は、東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会開会の年です。知恵を出して課題の先送りをすることなく前に進んでいきましょう。

## 人とのつながりが切れてしまったとき

その地に対する愛着はなくなる

(建築家 大島芳彦氏)

## やさしい なまはげ 秋田県

NHK ニュースで秋田県の「なまはげ行事」を取り上げていた。鬼が家々を回っては「泣ぐ子はいねが〜」と悪事を諷め、災いを祓う伝統的民族行事。その鬼の中に、いつの頃からか、「やさしいなまはげ」が混じるようになったとか。

その「やさしいなまはげ」は、高齢の方が住む家を回っては、どっかと腰を下ろし、出された手作りの料理を頂いたあと、「幾つになった〜? 元気が〜? 二人とも100歳まで長生きしろよ〜」と声をかける。目を細くして有難く頷くおじいさん、おばあさんの姿。その後、振り返ることなく雪道を、のっし、のっしと去っていくなまはげの背中に、ぬくもりとさみしさの両方を感じた。